

誌上行学講習会

高佐日焯上人

畜生心の縁覚心。これは痴行覚法心で、自分で体験
 上それを苦薩心。これは痴中他念心で、自分の欲情
 の儀性に於ては相手に対して気の毒だ、何か適当な方
 法で報いてやらねばと考へて、心言います。俗に人情
 を持つといいますが、それであり、いいます。俗に人情
 の女性を傷つけてしまつた。前途のあるものを何とも
 気の毒をしたといふ。心は痴中微良心で、道ならぬ行
 為であること、陀心。それは痴中微良心で、道ならぬ行
 分が相手だつたら、どの付いて、申しわけない若し自
 行為をしてすまなかつたという、本當にまちがひがあ
 す。人間は専ら欲の世界であります。と、餓鬼心になり
 ます。この地獄心。これは非道欲行心であります。餓鬼
 餓鬼の心で、道ならぬことをする、例へば後家さんを
 欲が目的で財産を取つてしまふ、例へば後家さんを
 ひっかけた、心で、道ならぬことをする、例へば後家さん
 からぬ心で、道ならぬことをする、例へば後家さん
 餓鬼の心で、道ならぬことをする、例へば後家さん
 果てしない極端さを有して、強盛欲行心で欲にかけては
 る。よ。人の心を考へれば、よく解ります。昔の方は御
 存知で、よ。東京に赤治銀行といふのがありました。
 渡辺治衛門といふ人が経営して、いたのですが、人呼ん
 で赤鬼のようないふ高利貸しといふ異名をそのまゝ、赤鬼
 の治衛門、赤治の銀行と呼ばれていました。全く情よ
 うしやもありません。

金が返せないと、病人の寝て、高利貸しを
 ひきはがせないと、病、人の寝て、高利貸しを
 あつたやうでも、持、か、く、こ、ろ、と、い、う、で、
 答は、ありませぬ。人の、今、全、く、死、な、ら、な、い、
 数々の不幸も、た、ら、な、い、と、い、う、強、盛、欲、行、心、を、
 つぶすには、非人情の心になり、強盛欲行心を、
 をするに、犠牲にする、強盛欲行心を、
 つとまらないので、強盛欲行心を、
 を、餓鬼心の畜生心。これは愚痴欲行心で、
 ど、う、も、倒、れ、さ、れ、る、こ、れ、は、愚、痴、欲、行、心、で、
 い、ま、概、して、一、人、間、に、は、何、事、も、き、れ、い、な、い、
 いた、人、の、愚、痴、欲、行、心、は、決、して、後、者、に、続、き、
 ます。女の愚痴欲行心は、その後者に、
 闘争心と、修羅心。これは、欲行闘争心で、
 欲闘争心の、方、は、普通、の、欲、が、あ、る、な、ら、ば、
 の、で、す、が、欲、闘、争、心、の、方、は、
 言、う、の、で、あ、り、ま、す。

以下次号